事業所名グループホームゆいの里

目標達成計画

作成日 ： 平成21年 9月15日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間	目標達成状況（任意）
1	16	排泄支援、暑い日の紙パンツ使用について	自立に向けての支援（布パンツ使用）	本人の気持ちを確認し、布パンツをはいていただく。 個人個人の排泄パターンを把握し、声かけ誘導によりトイレでの排泄介助を行う。	2 か月	
2	12	重度化や終末期に向けて、事業者としてできる事についての説明のしかた	入居契約時に説明資料として、重度化や終末期に向けてのわかりやすい書類を作成し、家族の意向及び協力体制の確認をする。	運営推進会議やグループホームゆいの家との合同ミーティングにおいて終末期ケアの対応を話し合い、協力医･家族･ホームの協力合意の下、終末期に向けての対応を行う。 ただし、食事摂取不可能となった場合や常に医療が必要となった場合は、ご家族と再度話し合い今後の意向を伺い対応する。	3 か月	
3					か月	
4					か月	
5					か月	

事業所名　今治市社協グループホームゆいの里
作成日　：　　平成　21年　9月　15日

サービス評価の実施と活用状況表

事業所のサービス評価の実施と活用状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】

実施段階		取り組んだ内容（↓該当するものすべてに○印）	
1	サービス評価の事前準備	○	①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		○	②利用者へサービス評価について説明した
		○	③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		○	④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
			⑤その他（　　）
2	自己評価の実施	○	①自己評価を職員全員が実施した
		○	②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		○	③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		○	④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
			⑤その他（　　）
3	外部評価（訪問調査当日）	○	①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		○	②評価項目のねらいを踏まえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		○	③対話から、事業所の努力･工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
			④その他（　　）
4	評価結果（自己評価、外部評価）の公開	○	①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		○	②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		○	③評価機関へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		○	④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
			⑤その他（　　）
5	サービス評価の活用	○	①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
		○	②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した（する）
			③「目標達成計画」を評価機関へ説明し、提出した（する）
		○	④「目標達成計画」に則り、目標達成に向けて取り組んだ（取り組む）
			⑤その他（　　）